



MINISTÈRE  
DE L'ÉDUCATION  
NATIONALE

EAE JAP 4

SESSION 2019

---

## AGREGATION CONCOURS EXTERNE

Section : LANGUES VIVANTES ÉTRANGÈRES  
LANGUE ET CULTURE JAPONAISES

VERSION SUIVIE D'UN COMMENTAIRE GRAMMATICAL

Durée : 6 heures

---

*Documents autorisés : Dictionnaire Kôji-en, Iwanami, 1983, et rééditions; Dictionnaire Taishûkan kango shinjiten, Taishûkan, 2001, et rééditions.*

*L'usage de tout ouvrage de référence, de tout autre dictionnaire et de tout matériel électronique (y compris la calculatrice) est rigoureusement interdit.*

*Si vous repérez ce qui vous semble être une erreur d'énoncé, vous devez le signaler très lisiblement sur votre copie, en proposer la correction et poursuivre l'épreuve en conséquence. De même, si cela vous conduit à formuler une ou plusieurs hypothèses, vous devez la (ou les) mentionner explicitement.*

**NB : Conformément au principe d'anonymat, votre copie ne doit comporter aucun signe distinctif, tel que nom, signature, origine, etc. Si le travail qui vous est demandé consiste notamment en la rédaction d'un projet ou d'une note, vous devrez impérativement vous abstenir de la signer ou de l'identifier.**

**Tournez la page S.V.P.**

## 炭鉱のカナリア

一九九〇年代後半に路上で活動していた私は、「失われた一〇年」と言われる九〇年代を通じて、日本社会の中に野宿者ホームレスが増え続けていく様を目撃していた。

路上で活動していれば、野宿生活がいかにキツイかは、すぐにわかる。冬場にしんしんと底冷えが伝わってくるコンクリートの上に体を横たえていれば、「好きでやっているのか、やむを得ないのか」といった論議が、いかに抽象的なおしやべりであるかは、体で理解できる。

失業を主たる原因とする野宿者の存在は、日本のセーフティネットの機能不全を告発していた。一人前の福祉国家であれば、失業と野宿の間には膨大な「距離」がある。社会保険・公的扶助のセーフティネットがあり、さまざまな福祉サービス・民間団体のネットがあるからだ。つまり野宿者の存在は、日本社会の「底抜け」ぶりを裏側から立証していた。

しかも、貧困問題が一般に「見えない」ことを特徴としているのに比して、野宿者は「見える」存在だった。大都市で野宿者のテント化が進んだ九八―九九年にかけては、多くの人が公園にブルーテントが急激に増えていく様子を目撃していたはずだ。野宿者は、日本社会の中でいかに貧困が進行しているか、日本社会が「どえらい」ことになってきているかを、「見える」形で示す非常に特異な存在だった。いわば、炭鉱の中で真っ先にガス漏れの異常事態に気づくカナリアの役割を果たしていた。

しかし、日本社会はその警告を無視した。野宿者の存在を社会全体の問題と受け止めず、「変わり者が好きでやっている」と自己責任論で片づけた。フリーターも同様だ。リクルートが「フリーター」という言葉を作った八〇年代末から九〇年代を通じて、フリーターは一貫して増え続けたが、それを社会全体への警告として受け止めることは、つい最近までなかった。労働組合は、増え続ける非正規労働者を自分たちへの脅威と考えることはあつたとしても、ともに手を組む相手とは捉えなかった。

先駆けて警告を発する者たちを自己責任論で切り捨てているうちに、日本社会には貧困が蔓延してしまつた。最近になってようやく、切りつけていたのが、他人ではなく自分の手足だったことが明らかになってきた。野宿者が次々に生み出されるような社会状況を放置しておく、自分たち自身の生活も苦しくなっていく。労働者の非正規化を放置し続ければ正規労働者自身の立場が危うくなる、と気づき始めた。しかし同時に、今度は「生活保護受給者がもらいすぎている」「給食費を払わない親がいる」と、依然として新たな悪人探し、犯人探しに奔走している。

手近に悪者を仕立て上げて、末端で割り食つた者同士が対立し、結果的にはどちらの利益にもならない「底辺への競争」を行う。もうこうした現象はたくさんだ。また同じことを繰り返すのだとしたら、私たちはこの一〇年でいったい何を学んだのか。

## 強い社会を

少なからぬ人たちの“溜め”を奪い続ける社会は、自身の“溜め”をも失った社会である。アルバイトや派遣社員を「気楽でいいよな」と蔑視する正社員は、厳しく成果を問われ、長時間労働を強いられている。正社員を「既得権益の上にあぐらをかいている」と非難する非正規社員は、低賃金・不安定労働を強いられている。人員配置に余裕のない福祉事務所職員とお金に余裕のない生活保護受給者が、お互いを「税金泥棒」と非難しあう。膨大な報告書類作成を課されて目配りの余裕を失った学校教師が子どものいじめを見逃す。財政難だからと弱者切捨てを推し進めてきた政党が、主権者の支持を失う。これらはすべて、組織や社会自体に“溜め”が失われていることの帰結であり、組織の貧困、社会の貧困の表われに他ならない。

なぜ貧困が「あつてはならない」のか。それは貧困状態にある人たちが「保護に値する」かわいそうで、立派な人たちだからではない。貧困状態にまで追い込まれた人たちの中には、立派な人もいれば、立派でない人もいる。それは、資産家の中に立派な人もいれば、唾棄すべき人間もいるのと同じだ。立派でもなく、かわいくもない人たちは「保護に値しない」のなら、それはもう人権ではない。生を値踏みすべきではない。貧困が「あつてはならない」のは、それが社会自身の弱体化の証だからに他ならない。

貧困が大量に生み出される社会は弱い。どれだけ大規模な軍事力を持つていようとも、どれだけ高いGDPを誇っていようとも、決定的に弱い。そのような社会では、人間が人間らしく再生産されていかないからである。誰も、弱い者イジメをする子どもを「強い子」とは思わないだろう。

人間を再生産できない社会に「持続可能性」はない。私たちは、誰に対しても人間らしい労働と生活を保障できる、「強い社会」を目指すべきである。

1) Traduire en français ce texte (extrait de 湯浅誠『反貧困－「すべり台社会」からの脱出』岩波新書 2008 年).

2) Etudier dans l'ensemble de la partie intitulée 「炭鉱のカナリア」 (depuis la première ligne jusqu'à 私たちはこの一〇年でいったい何を学んだのか。) les différents emplois de と.

## INFORMATION AUX CANDIDATS

Vous trouverez ci-après les codes nécessaires vous permettant de compléter les rubriques figurant en en-tête de votre copie.

Ces codes doivent être reportés sur chacune des copies que vous remettrez.

Concours	Section/option	Epreuve	Matière
EAE	0430A	104	0330